

循環器科

科部長 土信田 伸夫

現在当院循環器科は私を含め5名の常勤医師で診療を行っています。高齢化社会を迎え、また生活習慣病(高血圧症、糖尿病、高脂血症、メタボリックシンドローム)の増加から循環器科を受診する患者数は年々増加しています。日々の外来では一日50名程度



の再来および10名程度の新患者さんの診察をこなし、検査治療では2名の臨床工学士、専任の放射線技師、看護スタッフと共に虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)を中心に最新の心臓カテーテル検査装置を駆使し年間300例の冠動脈造影、100例の冠動脈血管形成術(カテーテル治療)を行っています。その他徐脈性不整脈に対しては年間20例程度のペースメーカー植え込み術を、頻脈性不整脈に対しては高周波カテーテルアブレーション



1シオンを施行しています。今後さらに症例の増加が予測される領域でありスタッフ一同昼夜を問わず診療に励んでいます。動悸、息切れ、胸部不快感などお悩みのことがあればご相談ください。

歯科口腔外科

科部長 飯野 光喜

当科の一番の特徴は、診療範囲が広くほぼすべての口腔外科疾患(口や顎のさまざまな病気)に対応していることです。具体的には、口腔癌(舌癌・歯肉癌など)、インプラント治療、顎変形症手術(受け口などに対する顎の形成手術)、唇裂口蓋裂手術、顔面骨折手術



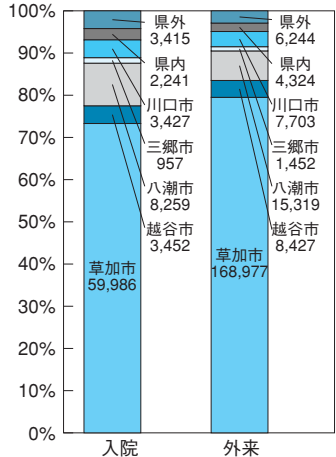
術など大きな大学病院で行なわれることが多い手術も充分こなせる体制ができています。特に顎変形症や口蓋裂の患者さんは埼玉県他地域や群馬県・栃木県からも来院していただいております。最近はこちら手術件数が増えました。



かりつけの先生方と十分な連携をとって安全な治療に努めるとともに、恐怖心の強い方の抜歯に際しては鎮静剤の注射などを使用して可及的に苦痛の少ない手術になるよう心がけています。

診療科紹介

■患者の地域別内訳(人)



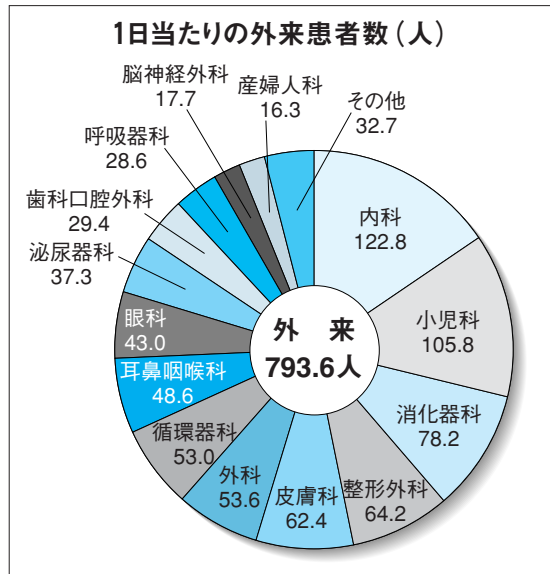
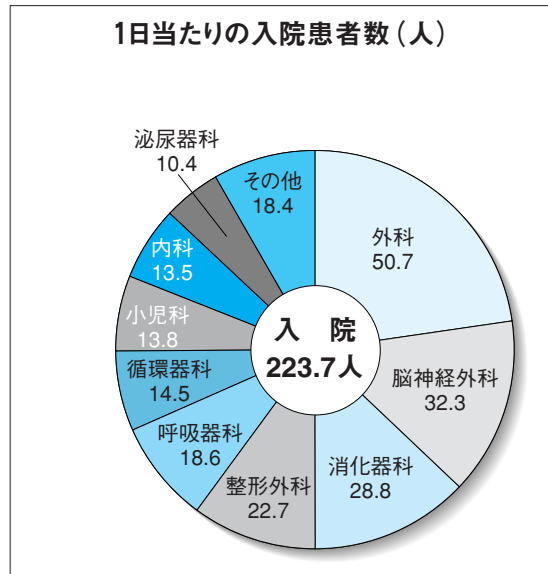
18年度市立病院事業報告

患者は1日当たり入院223.7人、外来793.6人

平成18年度草加市立病院事業の概要をお知らせします。市立病院を利用した患者さんは、入院が1日平均223.7人(年間延べ81,737人)、外来が1日平均793.6人(年間延べ212,446人)でした。経営面では、入院患者数等の増加により損益収支は前年度と比較して改善されましたが、医療制度の改革や診療報酬の見直し、全国的な医師や看護師不足等により病院を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。

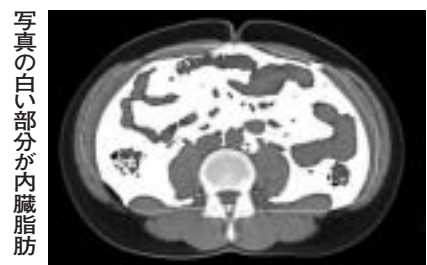
市立病院では、引き続き、市民の皆様の医療ニーズに応えるため、地域の医療機関との連携を図りながら健全で効率的な経営を行い、良質で安全な医療の提供に努めてまいります。

■1日当たりの診療科別患者数



■患者数および医業収益の状況

	区分	平成18年度	平成17年度	増減	前年度対比
入院	患者延人数	81,737人	77,839人	3,898人	105.0%
	入院収益総額	3,103,149,675円	2,838,343,972円	264,805,703円	109.3%
外来	患者延人数	212,446人	222,679人	△10,233人	95.4%
	外来収益総額	1,627,277,498円	1,535,831,261円	91,446,237円	106.0%
入院・外来収益総額		4,730,427,173円	4,374,175,233円	356,251,940円	108.1%



写真の白い部分が内臓脂肪
日本人の3大死因は、がん、心臓病、脳卒中です。そのうち心臓病と脳卒中は動脈硬化が原因となる病気です。「糖尿病のけがある」「少し血圧が高め」、などとまだ病気とは診断されていない予備軍でも、それらがいくつか重なると、心臓病や脳卒中になりやすくなるということがわかってきました。この動脈硬化が起こりやすい状態にあるのが、「メタボ」と診断される方なのです。

「お父さんメタボだ!!」病院のエレベーターの中で親子のこんな会話を聞きました。小さなお子さんでも知っているのだと驚きましたが、最近世間で良く聞く「メタボ」ってどんなものか皆さんご存知ですか?
高脂血症、高血圧、糖尿病などの生活習慣病は内臓に脂肪が蓄積した内臓脂肪型肥満が原因の1つであることがわかってきました。内臓脂肪型肥満に加えて、脂質異常、高血圧、高血糖のうち2つ以上があるとメタボリックシンドローム(メタボリック症候群)といえます。それを略して「メタボ」と呼んでいるわけですが、メタボはどうして注意が必要なのでしょう?
日本人の3大死因は、がん、心臓病、脳卒中です。そのうち心臓病と脳卒中は動脈硬化が原因となる病気です。「糖尿病のけがある」「少し血圧が高め」、などとまだ病気とは診断されていない予備軍でも、それらがいくつか重なると、心臓病や脳卒中になりやすくなるということがわかってきました。この動脈硬化が起こりやすい状態にあるのが、「メタボ」と診断される方なのです。

メタボってなに?

養調査によると、40歳〜74歳の男性の2人に1人、女性の5人に1人がメタボが強く疑われます。

左にメタボの診断基準をのせましたので、みなさんも是非チェックしてみてください。いくつかあてはまる項目があるかもしれません。

では、予防法や改善を考えていきましょう。

まず、予防と改善の基本は適正な食事と無理なく続けられる運動です。

食事は摂取カロリーや栄養素のバランスを考えて食べるのが大切です。運動は軽く汗をかく程度の継続できる運動がよく、ウォーキングなどの有酸素運動がお勧めです。

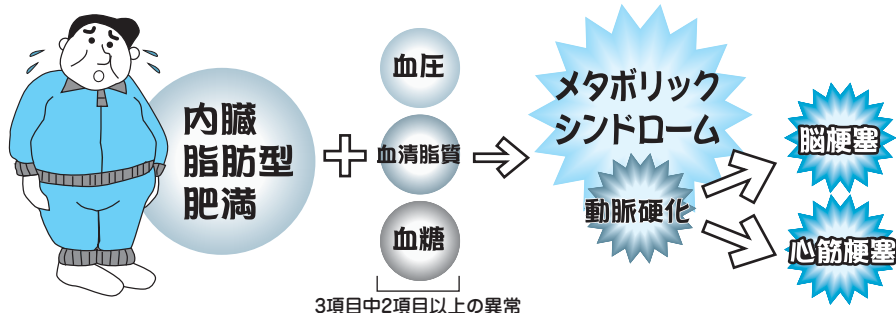
そして、食事療法と運動療法で改善しない場合には薬物療法が必要となります。ただ、薬物療法をしているからといって、食事療法と運動療法がおろそかになつては意味がありません。

食事、運動、薬物療法をしっかり行つて、少しでも動脈硬化の起こりにくい身体に近づけることが大切です。

メタボリックシンドロームの診断基準

内臓脂肪の蓄積(腹囲):
男性で85cm、女性で90cm以上)に加えて、脂質、血圧、血糖の3項目のうち2つ以上の項目があてはまるとメタボリックシンドロームと診断されます。

- 脂質異常(中性脂肪値150mg/dL以上、HDLコレステロール値40mg/dL未満のいずれかまたは両方)
- 高血圧(最高血圧130mmHg以上、最低血圧85mmHg以上のいずれかまたは両方)
- 高血糖(空腹時血糖値110mg/dL以上)



す。メタボの治療とは動脈硬化から起こる心臓病や脳卒中などの病気を予防することが目標です。現在症状がないからといって放っておくのは危険なものです。皆様も是非「脱メタボ」に取り組んでみてください。

内科医師 富田 由紀